

2013.03.28

「黒田日銀総裁に期待」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は3月28日です。本日の午前中に、新しく日銀総裁に就任された黒田東彦氏を参議院の財政金融委員会にお招きし、質問がなされました。私自身、今回は質問にはたちませんでした、黒田総裁のお話は非常に良かったと思っております。その理由は、デフレ脱却の為に出来ることを何でもやると同時に、安倍総理や政府と共に共同声明を出し、日銀として政策を実行していくということが挙げられたからです。そして、その中で「デフレ脱却」が使命であることは当然であり、「なぜデフレに陥ったのか」ということを色々な方が質問をされていました。例えば、人口減少が原因であるという意見が述べられたのですが、黒田総裁は「そうではない、もちろん色々な影響はあるが直接的には関係ない」と仰られています。また、人口減少は他の国々でも起きているが、人口減少と共にデフレに陥っているのは日本だけである。ではなぜ、日本だけがデフレに陥っているのかといえ、外国からの安い品物が日本に流入されるためであり、また、流通改革が行われて商品が安く売れるようになったことで、企業も低価格路線を徹底し始めたため、と黒田総裁は指摘されました。まさにこのことは、海外から安い商品を流入させることで流通革命を起こしていくというような、規制緩和をはじめとする構造改革が原因であるとするものです。もちろん、黒田総裁はこのようにはつき

りとは仰られておりませんでした。彼が主張されていることは、それぞれが構造改革の結果として起きたことである、ということです。そして、黒田総裁はこのような点に対して問題意識を持ちながら、政策を実行していくわけでありますから、私は彼に非常に期待をしております。私は白川前総裁とも金融緩和について多々議論しました。その中で、金融緩和は行なっているが、あとは需要を創らなければならないという話になったのです。白川前総裁が退任挨拶でお越しになった時も「西田先生には私の意見が分かっていたでき、応援して下さったと解釈しております。」と仰っていました。そして、「正にその通りです。」と返したのですが、要するに、日銀も大胆な金融緩和をさらに行わなければならないと主張していたのですが、それだけではデフレは解決出来ません。デフレは需要不足から起きているのですから、アベノミクスで言う二本目の矢の「財政出動」が絶対的に必要だったのです。ところが、この財政出動を民主党政権は恐れてしまい、実行していませんでした。その原因は、自民党政権時代もそうでしたが、財政再建が至上命題であったからであり、また、税の裏付けなしに国債を発行すると、日本政府が破綻するのではという考えが基になっていたからです。しかし、私達が主張してきたことは、日本の国債はほぼ国内で消化されており、また、そもそも自国の通貨で発行している国債が破綻するのは有り得ないわけで、日銀が通貨発行権を行使し買取さえすれば、必ず国債は償還でき、破綻することは有り得ないということです。しかし、このこ

とを日銀が直接行なってしまうと、日銀が財政のファイナンスを行っているということになり、国債の信用が落ちてしまうと民主党は結局のところ主張し、堂々巡りの論理で出来なかったのです。しかし、今回の黒田総裁は、財務官時代に日本の国債が外資の格付け企業から低評価された際、「それはとんでもない。そもそも自国通貨で行なっている国債が破綻するわけない」としっかりと反論されたのです。そして、このように国債は破綻しないと仰る方が日銀総裁に就任されましたので、自信を持って政府と協調関係を持つことができるのです。そういったことから、アベノミクスの一本目、二本目の矢は上手く機能していくと思っております。しかし、その一方で、黒田総裁自身の「デフレの原因は構造改革に原因がある」との文意もあります。が、現在のところ、安倍政権が構造改革を全て否定し内需を拡大していく方向に舵を切ったかといえそうではありません。つまり、三本目の矢であるイノベーションです。このイノベーションは構造改革派が常に主張してきたことであり、技術革新を促進することでゾンビ企業を無くしていくという話になるのです。要するに、「アベノミクス」は「アベのミックス」であり、経済学説的には異なる意見ではありますが、デフレ脱却の為に三本の矢をミックスさせて様々な政策を実行している、ということになっているのです。また、学説というのは様々な前提状況を基に論じられており、必ずしも全てが正しいわけではなく、状況などの TPO によって使い分けなければなりません。この TPO に応じて行わなければなら

ないデフレ対策を、金融面・財政出動の面・技術革新の面から実行することで、三本の矢がデフレ脱却という一つの焦点に集約されていくのです。これらの矢が上手くバランスがとれるとデフレは脱却できます。ところが、これらの矢のさじ加減を誤るとバランスが崩れてしまいます。要するに、安倍内閣は様々な学説、多才な人物を用いながらデフレ脱却に向けて走り出したのです。これを、一つの学説だけに絞って行動してしまうと、様々な矛盾点が出てきてしまうのです。実際問題は、現実の経済と対話しながら三本の矢をバランスよく実行していくことでもあります。

そして本日は、黒田総裁の質疑を通して、財政・金融面からデフレ脱却への力強い意志が感じられたわけであります。

先日の麻生副総理兼財務大臣に引き続き、日銀の黒田新総裁も安倍内閣にとっては非常に心強いモノを感じましたことを報告させて頂きました。

本日もご覧になって頂き、ありがとうございました。